

事業案内

2022(令和 4)年度事業報告

2023(令和 5)年度事業計画



社会福祉法人
千葉いのちの電話

24時間年中無休
相談電話 043-227-3900

CONTENTS

ごあいさつ	1
千葉いのちの電話の理念	2
2022（令和4）年度事業報告	3
I. 相談事業報告	
(1) 電話相談事業	3
(2) インターネット相談事業	10
(3) 対面相談事業	11
(4) 自死遺族支援事業 わかちあいの会「ひだまり」	13
II. 養成と研修	15
III. 公開講演会・公開講座	16
IV. 活動報告	16
V. 他機関との連携	17
2022（令和4）年度 決算報告	18
2023（令和5）年度 事業計画基本方針	21
2023（令和5）年度 事業目標	21
千葉県いのちの電話協会	22
役員名簿	23
千葉いのちの電話役員名簿	
研修専門家部会名簿	
千葉県いのちの電話協会役員名簿	
ご支援のお願い	

ごあいさつ



社会福祉法人 千葉いのちの電話

理事長 友田 直人

2022（令和4）年度も幅広い県民の皆様のご支援を賜り、ここに千葉いのちの電話の事業報告並びに2023（令和5）年度の事業計画をご報告できますことを深く感謝申し上げます。

コロナ禍も先日の5類への移行に伴い、医療を含め文字通り「With コロナ」の社会生活を余儀なくされました。この間、相談員はご家族を含め様々な不便と緊張に耐えながら、相談活動を続けて参りました。

必要な相談員が集まることができず、相談時間を短縮せざるを得なかったときは、一同忸怩たる思いでございました。つながりを求める人は多いだろうに、十分こたえることができない、早く平常に復帰しなければ、との思いを皆が持っていました。

一方、新規のボランティア養成の応募者が増え、この3月、38人が新たに認定され、実働数は一年前より29人増の207人となりました。そしてこの7月、漸く念願の24時間365日の看板に背かない体制となることができました。

昨年度、日本にカウンセリングを普及させた第一人者である友田不二男先生の理念に基づく「掌風会」様よりのご寄付を賜り、相談員や研修担当者の養成の充実に役立たせていただくことになりました。助成金と会費・寄付金で運営している民間団体として主旨に賛同していただける方からのご支援は誠にありがたいことです。

2022年の統計では、女性の自殺者数が4年連続して増加していること、この数年の未成年層の自殺死亡率の突出した上昇などが見て取れます。社会全体として更に手厚い対応の必要性を痛感します。いのちの電話もこれからも社会の要請に応じてゆく努力が求められるでしょう。

今年度、何よりも私たち相談員一人ひとりには変わらず、様々な問題をかかえ生きることの苦悩する人に寄り添い、傾聴と共感で応える、という基本理念を常に忘れず、地道に相談活動に全力を尽くすことにより社会へ貢献して参りたいと存じます。

引き続き千葉いのちの電話に対するさらなるご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

千葉いのちの電話の理念

千葉いのちの電話はかかわりを求め、なんとか対処しようと苦悩している人たちに「私たちがここにいるよ」と表明し、寄り添いかかわりを求められる存在でありたいと望んでいます。そのために傾聴を基本の姿勢として、時には自殺まで思うほどの精神的危機にある人に寄り添い、対等な人間としてかかわりを持ち支え合う相談活動をしています。また、使命の大きな柱である自殺予防のため、裾野の広い自殺予防活動を行います。

相談援助活動の4本の柱

電話相談

043-227-3900
24時間365日
年中無休

わかちあいの会
-自死遺族支援-

対面相談

-こころの相談室-
予約専用電話
043-222-4331



インターネット
相談

◆ 千葉いのちの電話の歩み

- | | | | |
|-------------------------------|---------------------|------------------------|--------------|
| ・ 設立準備委員会発足 | 1988年 1月 | ・ 社会貢献者表彰 | 2010年10月 |
| ・ 千葉いのちの電話開局 | 1989年10月 1日 | ・ 「震災ダイヤル」参加 | 2011年 3月 |
| ・ 千葉県いのちの電話協会発足 | 1990年10月20日 | | ~2013年 9月26日 |
| ・ 社会福祉法人設立認可 | 1993年12月28日 | ・ 「ナビダイヤル」参加 | 2013年 3月 |
| ・ 第22回いのちの電話相談員全国研修千葉大会 | | ・ 千葉県社会福祉賞受賞 | 2013年12月25日 |
| ・ 第10回アジア太平洋地域電話カウンセリング国際会議開催 | 2001年 6月13日
~16日 | ・ 厚生労働大臣表彰 | 2014年 9月27日 |
| ・ 千葉市社会福祉功勞表彰 | 2005年10月 | ・ 開局25周年記念式典 | 2014年10月 1日 |
| ・ 自死遺族支援「わかちあいの会ひだまり」を開始 | 2006年11月 | ・ 千葉県いのちの電話協会25周年記念式典 | 2015年 9月30日 |
| ・ 新会館（CIDビル）に移転 | 2007年 6月 1日 | ・ 開局30周年記念式典 | 2019年10月 1日 |
| ・ インターネット相談開始 | 2008年 7月 | ・ コロナ禍対応「毎日フリーダイヤル」参加 | 2020年 6月 |
| ・ 対面相談開始 | 2009年 4月 | ・ 千葉市地域社会貢献者褒賞を相談員が受ける | 2022年 6月 |
| ・ 千葉日報社会福祉賞受賞 | 2009年11月 | | |

社会福祉法人 千葉いのちの電話 概況

(2023年4月1日現在)

【設 立】1989年10月1日

【法人認可】1993年12月28日

【組 織】理事：8名 監事：2名 評議員：16名 後援会役員：11名 監事：1名

【認定者累計】1,234名 【実動相談員数】201名 【活動ボランティア数】24名

2022（令和4）年度事業報告

（2022年4月1日～2023年3月31日）

はじめに

福祉サービスの提供として精神的危機に直面し、援助と励ましを求めている人びとと、主に電話という手段で対話し、健全な社会人として生活することが出来るよう援助し、その他にこれに関連するサービスを提供し、もって社会福祉の増進に寄与することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

定款（目的）第1条

この一文は、千葉いのちの電話の活動の使命や理念を表わし、定款の第1条に掲げています。私たちはこの目的の実現のために市民運動のボランティア組織ではありませんが、責任ある組織として活動を継続して参りました。2022（令和4）年度の電話相談・自死遺族支援・対面相談・インターネット相談の4相談事業の活動の概要を中心に、ここにご報告させていただきます。

I 相談事業報告（2022年4月～2023年3月）

（1）電話相談事業（次の4種を実施中）

- ・ 通常の千葉いのちの電話相談は5帯を第2週は除く金、土曜日実施
- ・ ナビダイヤル（登録センター共通番号10時～21時）固定・携帯での利用
- ・ 厚生省主管のフリーダイヤル毎月10日8時～翌日8時の24時間
- ・ 毎日コロナフリーダイヤル（第2週を除く水16時～21時）

①内容分析

新型コロナウイルスの影響で、電話相談活動の制約は今も続いています。現在、深夜帯をフリーダイヤルの他、金、土曜日（第2週を除く）を実施し、ほかの曜日でも4帯まで行えるようになりました。8月からは33期養成の実習が始まったこともあり年間総受信件数が2021年度12,023件から2022年度は16,093件になりました。

一日の平均の受信件数も、2021年度34.5件から増えて2022年度は平均44件となっています。かけてくる方は男性7,524件（46.7%）女性8,542件（53.1%）で男女差は1,000件近くあります。1月からはかけ手の項目に「その他」の項目が入り27件ありました。

自殺傾向は全体では12.8%ですが種別ではフリー21.8%、ナビ23.1%、毎日フリー23.6%と通常11.3%、に比べると高くなっています。比率は女性の方が高く、死にたいなどの言葉をききます。

資料 1

- ・内容別にみますと相談は男女とも「人生」と「精神」が多く、「人生」では生きづらさを語られます。「精神」は体調の不安や苦しさ医療機関への不満周囲や家族から理解されない辛さをかたられ自殺傾向も高いです。女性からは「家族」について、親からの虐待、家庭内暴力など、「対人」は男女とも職場でのトラブル、いじめ、引きこもりを語られます。「夫婦」は女性からの電話が多く配偶者からのDV不信を訴えます。「経済」は生活苦、お金がない、家賃が払えない老後の不安、商売の苦しさを訴えます。

資料 2

- ・フリーダイヤルの内容別では男性が女性より多くかかってきます。相談は「人生」「精神」です。

資料 3

- ・年代別では40代50代の方からの相談が多く40代男性、50代は女性からの相談が多いです。自殺傾向は40代男性が高くなっています。内容は「人生」「精神」です。

自殺傾向の背景には孤独、孤立、生活困窮、過労など社会的要因もあると思われれます。

資料 4

- ・精神疾患を抱えていると予測される方は全体の49%の7,897人います。受信中に話さない方を含めると50%強と推測されます。治療中の方からの相談が多く自殺傾向も高くなっています。

この3年間私たちの生活は変容を強いられてきました。生活格差も拡大し精神疾患を抱えている方がますます生きにくくなっています。

②電話相談件数概況

受信数			累計		
2022年4月～2023年3月(365日)			1989年10月～2023年3月		
総受信件数	16,093件		総受信件数	710,072件	
一日平均	≒44件				
男	7,524件	46.7%	男	313,962件	44.2%
女	8,542件	53.1%	女	394,039件	55.5%
その他(不明含む)	27件	0.2%	その他(不明含む)	2,071件	0.3%

種別	件数	男		女		その他	
		件数	%	件数	%	件数	%
通常	14,059件	6,510	46.3%	7,527	53.5%	22	0.2%
フリーダイヤル	703件	406	57.8%	295	42%	2	0.3%
ナビダイヤル	775件	337	43.5%	437	56.4%	1	0.2%
毎日フリーダイヤル	556件	271	48.7%	283	51%	2	0.3%
総計	16,093件	7,524		8,542		27	

自殺志向（通常・フリーダイヤル・ナビダイヤル・毎日フリーダイヤル）

	総受信数	念慮			危険			予告・通告			実行中		
		男	女	その他	男	女	その他	男	女	その他	男	女	その他
通常	1,595件	655	822	2	21	52	0	18	13	0	1	11	0
フリーダイヤル	153件	80	63	1	3	1	0	1	4	0	0	0	0
ナビダイヤル	179件	55	109	0	2	10	0	1	1	0	1	0	0
毎日フリーダイヤル	131件	53	70	1	4	2	0	1	0	0	0	0	0
総計	2,058件	843	1,064	4	30	65	0	21	18	0	2	11	0

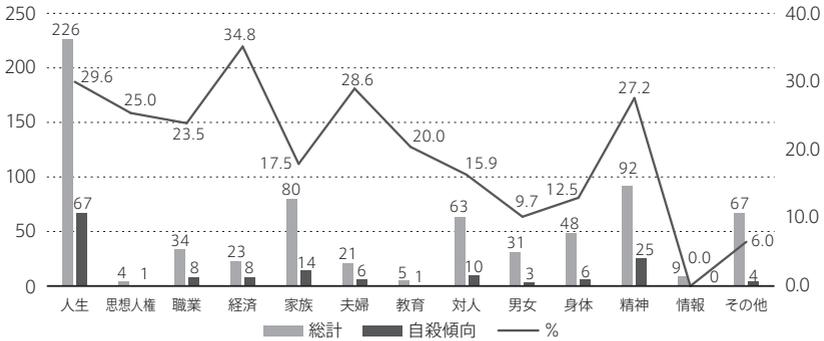
総受信件数16,093件のうち自殺傾向は2,058件（男896件・女1,158件・その他4）総受信件数の12.8%

◆ 内容別件数と自殺傾向（通常、自殺予防、毎日FD、ナビダイヤル）



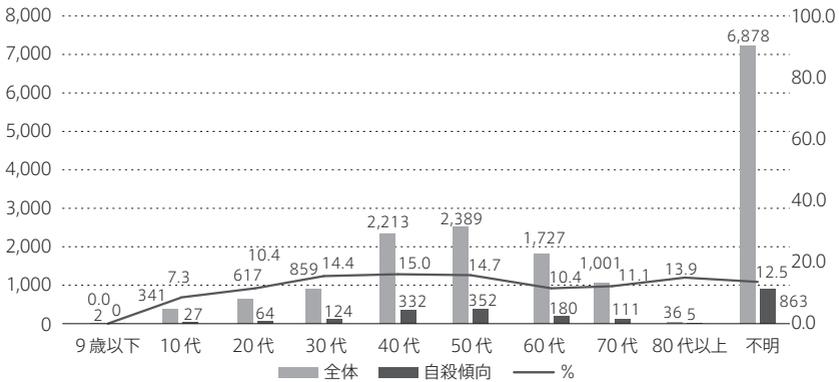
問題別内容	人生	思想人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	総計
男	1,642	45	684	190	486	209	18	656	332	435	1,263	84	1,480	7,524
女	2,048	36	503	204	1,405	560	31	1,303	215	562	1,212	68	395	8,542
その他	6	0	1	0	1	0	0	0	4	5	2	1	7	27
総計	3,696	81	1,188	394	1,892	769	49	1,959	551	1,002	2,477	153	1,882	16,093
自殺傾向	721	8	114	61	170	77	5	142	39	119	540	8	44	
%	19.5%	9.9%	9.6%	15.5%	9.0%	10.0%	10.2%	7.2%	7.1%	11.9%	21.8%	5.2%	2.3%	0.0%

◆ 内容別件数と自殺傾向（フリーダイヤル）



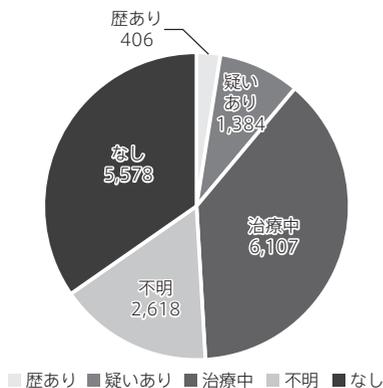
問題別内容	人生	思想人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	総計
男	137	1	14	18	27	13	4	30	20	22	60	7	53	406
女	89	3	20	5	53	8	1	33	9	26	32	2	14	295
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
総計	226	4	34	23	80	21	5	63	31	48	92	9	67	703
自殺傾向	67	1	8	8	14	6	3	10	3	6	25	0	4	153
%	29.6%	25.0%	23.5%	34.8%	17.5%	28.6%	20.0%	15.9%	9.7%	12.5%	27.2%	0.0%	6.0%	21.8%

◆ 年代別件数と自殺傾向

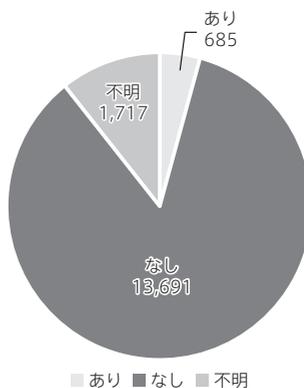


年代別	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明	合計
全体	2	371	617	859	2,213	2,389	1,727	1,001	36	6,878	16,093
自殺傾向	0	27	64	124	332	352	180	111	5	863	2,058
%	0.0%	7.3%	10.4%	14.4%	15.0%	14.7%	10.4%	11.1%	13.9%	12.5%	12.8%

◆ 精神疾患有無別件数



◆ 自殺未遂歴有無別件数



◆ 精神疾患相談件数

	歴あり	疑いあり	治療中	不明	なし	合計
男	176	534	2,820	1,395	2,599	7,524
女	230	847	3,285	1,218	2,962	8,542
その他	0	3	2	5	17	27
計	406	1,384	6,107	2,618	5,578	16,093
自殺傾向	67	232	1,193	213	353	2,058
%	16.5%	16.8%	19.5%	8.1%	6.3%	12.8%

◆ 自殺未遂 (2022年9月～年12月)

	あり	なし	不明	計
男	251	6,399	874	7,524
女	432	7,274	836	8,542
その他	2	18	7	27
計	685	13,691	1,717	16,093

◆ コロナ受信件数

電話研修担当者会

項目	件数	内容
仕事関連	160件	失業 休業 収入減 自営困難 解雇 配置換え 仕事がない 生活不安
感染関連	244件	ワクチン副反応 コロナ後遺症 身内のコロナ死 感染不安 施設クラスター
外出控え	113件	施設面会不可 通院控え 旅行控え 帰省控え イベント中止
その他	158件	人間関係が希薄になった 不眠 コロナ不登校 家族への不満 ストレス
	675件	

コロナ3年目は、本人を含む周辺のコロナ感染者が圧倒的に増加。40代～60代で、後遺症への不安、ワクチン副反応の辛さを訴える人が多かった。収入が減り、物価高に生活不安を訴える人は多く、身内や友人との関係も希薄になり、孤立したひとり暮らしが増えている。

◆ コロナに関する年代別受信数

	コロナ	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
4月	52件	1件	1件	2件	4件	9件	12件	3件	20件
5月	48件	1件	2件	3件	3件	12件	6件	5件	16件
6月	35件	1件	1件	2件	7件	2件	5件	0件	17件
7月	56件	0件	1件	5件	5件	5件	14件	4件	22件
8月	93件	0件	1件	5件	16件	12件	21件	6件	32件
9月	48件	0件	2件	4件	8件	9件	6件	2件	17件
10月	55件	2件	0件	0件	7件	7件	8件	6件	25件
11月	63件	1件	0件	4件	11件	5件	6件	5件	31件
12月	75件	1件	0件	1件	8件	11件	11件	5件	38件
1月	83件	0件	3件	7件	9件	12件	16件	6件	30件
2月	40件	0件	1件	3件	10件	6件	4件	2件	14件
3月	27件	0件	1件	2件	4件	2件	7件	1件	10件
	675件	7件	13件	38件	92件	92件	116件	45件	272件

③ 電話相談活動体制（電話相談事業部会）

i) 電話相談活動……別紙資料あり

新型コロナウイルス禍3年目。コロナ感染状況を見ながら段階的に相談実施時間を広げてきた。相談時間体制が安定するようになってきたことと33期相談ボランティア養成研修の第Ⅳ課程の実習が8月後半から始まるのを機に次の段階に進んだ。

まず、8月から第2週を除く金曜日に深夜帯（5帯）を実施した。8月後半には、21時30分（4帯）までを毎日とした。

33期生がコロナ禍にも拘らず、例年にない多くの人数の応募があり、実習に入ると相談員が今まで入っていた帯に入れなくなる懸念があったため、電話機を1台増設することで対応した。電話担当調整は、研修ボランティア担当と共に調整に苦慮したが、相談員も事務局も実習生だけにならないように担当に入り、無事に終了できた。実習当時43名で始まり、認定時は38名。相談員の5分の1に当たる。3月末の電話担当人数は、194人となった。

12月からは、深夜帯実施を一日増やし、第2週を除く金曜日と土曜日とした。実習生が深夜帯を担当するにあたっては、担当時の説明の周知に努めた。連盟の10日フリーダイヤル（24時間）と毎日コロナ禍フリーダイヤル（16時～21時、第2週を除く水曜日に参加）は、実施を続けている。

2023年度は、深夜帯のさらなる回復が課題だが、3年のブランクの影響は大きく、加齢もある。もとより、相談員の高齢化が懸念されていたため、深夜帯ができないという相談員も4分の1くらいいる。24時間365日に戻しているのかどうか、相談員の人数等も考慮して計画していきたいと考えている。

ii) 電話担当調整等

- ・ 継続研修グループ毎の担当調整……年間割り当て週がある。
- ・ 電話相談員の連絡網による担当調整

役員が適宜「空き情報」をグループ毎の連絡担当者に発信し、連絡担当者がグループメンバーに流して協力をお願いしている。ネット上での予約状況に実習生が分かるようになったことは、担当調整の助けとなった。

iii) 会議

- ア) 役員会議：毎月1回は必ず開催。その他作業や定例会議に伴う準備も含め必要に応じて開催。
- イ) 定例会部会議：役員（4名）と各継続研修グループからの代表メンバー（17名）による定期的な会議。年6回開催、電話活動をしている上での問題や課題を話し合っている。内、12月は談話室等の大掃除、災害時等の備蓄品のチェックを行っている。
- ウ) その他役員が出席する会議は、下記の通り。
- ・ 事業委員会（事業委員長として運営協議会にも出席）・研修ボランティア部会等。
- エ) その他
- ・ 年末年始の電話担当者に慰労のお菓子等を用意
 - ・ 局外活動（他団体との交流）……千葉市ボランティアセンター連絡協議会の活動に参加

電話相談活動状況（4月～3月）

電話相談事業部会

月	月日・活動時間	10日FD	実績人数/ 担当人数 (0回人数)	受信件数 (内フリー帯)	クローズ 回数：帯	1人 担当帯
		コロナ禍FD				
4月	日・月・火・第2水：1帯～3帯 (7:30～18:30) ----- 木・金・土 1帯～4帯 (7:30～21:30)	・実施 ・3日実施	141/169 (0回28)	1,011 (4)	2回：4帯	5回 各帯
5月	同上	・実施 ・3日実施	154/170 (0回16)	1,146 (1)	1回：4帯	1回 1帯
6月	同上	・実施 ・3日実施	144/171 (0回27)	1,085 (2)	1回：6/14・ 1帯 電話機 増設	1回 4帯
7月	同上	・実施 ・3日実施	140/169 (0回29)	1,206 (3)	2回：4帯	3回 各帯
8月 1～ 15～ 31	一部深夜帯開始 (第2を除く金曜日) 他の帯は7月同様 33期生実習開始 毎日1帯～4帯 (7:30～21:30)	・実施 ・4日実施	175/207 (0回32)	1,320 (0)	2回：4帯、 5帯	3回 3帯、4帯

月	月日・活動時間	10日FD	実績人数/ 担当人数 (0回人数)	受信件数 (内7リー帯)	クローズ 回数：帯	1人 担当帯
		コロナ禍FD				
9月	同上	・実施 ・3日実施	185/202 (0回17)	1,447 (0)	1回：5帯	1回 3帯
10月	同上	・実施 ・3日実施	188/208 (0回20)	1,488 (5)	4回：4帯	1回 4帯
11月	同上	・実施 ・4日実施	187/205 (0回18)	1,506 (5)	0回	4回 各帯
12月	深夜帯を金・土（第2週除く）	・実施 ・3日実施	177/206 (0回29)	1,481 (1)	4回：4帯	5回 各帯
1月	同上	・実施 ・3日実施	182/203 (0回21)	1,459 (1)	3回：4帯	0回
2月	同上	・実施 ・3日実施	177/199 (0回22)	1,417 (3)	0回	1回 4帯
3月	同上	・実施 ・4日実施	177/194 (0回17)	1,527 (6)	2回：4帯、 5帯	4回 各帯
計				16,093 (37)	22回	29回

(2) インターネット相談事業

2022年5月からは、感染に注意し三密を避けながらネット活動はコロナ以前の体制に復帰できた。相談日も月5回から月6回に戻った。相談件数は2021年に比し70件多い295件、地域別、性別、年代別はほぼ同様の傾向だった。内容は「人生」「精神」が多く、続いて「家族」「職業」であり、年代は30、50、40、20代と続いている。在宅時間が増えたことにより家族間の問題、パート勤務者の職場での居づらさ、女性の仕事と家事の両立の困難からくる不満などが挙がっていた。また介護の負担について兄弟間の不平等感が挙げられていた。障害をもつ人からは周りからの勤めで施設への入所が決まったが不安な気持ちが寄せられていた。このように生きづらさの中にいる方々からの相談が多かった。

研修は上田先生、日下先生、石川先生のご協力により、ネットの基本となること、精神疾患や心理的な問題を抱える方への対応などを学んだ。昨年に引き続いて元刑務官の「性犯罪と自殺」についての講義は他の事業部との合同研修とし、継続研修は自主研修と合わせて年10回開催できた。研修内容をUSB録画やZOOM配信の形で取り込み来会出来ない相談員や欠席者への便宜が図られ、また復習に活用する事が出来た。研修欠席者には録画視聴とレポートの提出で履修扱いとした。

新年度は認定された2名が加わり活動相談員は15名となった。そこで本年5月からは【月7回の相談日】を実施している。更に新たに1名の希望者があり、新人研修がスタートし、大変心強く一緒に活動出来る日を楽しみにしている。今後もスキルアップを続け、寄せられる相談に真摯に取り組みたいと考えている。

〈インターネット相談統計〉

地域別		性別		相談回数	
千葉県	184	男	76	1 回	142
その他	72	女	190	2 回	88
不 明	39	不 明	29	3 回	65
計	295	計	295	計	295

■ 年代別相談件数

年代別	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	計
件 数	0	25	46	65	50	55	11	0	43	295

■ 自殺傾向

自殺傾向	なし	念 慮	危 険	予 告	実施中	不 明	計
件 数	184	70	3	2	0	36	295

■ 相談内容別

相談内容	人生	人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	計
件 数	80	4	26	14	28	17	12	30	1	6	46	11	20	295

(3) 対面相談事業

2009年に対面相談を開始して以来、この13年間の対面相談実施総件数は1,584件となった。

2022年度は、コロナ禍3年目を迎え完全には終息に至らない中、コロナとともに共存せざるを得ない状況で、引き続き感染防止に配慮しつつ相談実施日を週4日体制として相談業務に当たってきた。対面相談実施件数は、174件と前年度（153件）の14%増となった。

対面相談実施件数の男女別では、男性が63件（36%）、女性が111件（64%）で、女性が男性の2倍弱の比率となっている。年代別では、男女とも50代と60代の割合が多く、全体の75%を占めている。また男性は30代の世代が次に多くなっている。相談内容別では、「家族」「人生」「対人」の順になっている。相談傾向として、混迷の時代を引きずったまま、社会的ストレスによるこころの不安定さが、人間関係の歪みや身近な家族関係にも影響を与え不調をきたしている。また人々のこころのつながりが薄弱している状況で社会的な孤立化が進んでいる。

今後、不確実で不安定な社会情勢が続き、格差社会が消えない状況であっても、誰もが自己実現や幸福を追求できる社会を目指し、少しでもメンタルヘルスの向上に役立つように対面相談事業を継続していきたい。

◆ 対面相談実施件数

年 度	実施件数
2009年～2021年	1,410
2022年	174
計	1,584

◆ 対面相談実施件数 男女別

年 度	実施総数	男	女
2022年	174 (0)	63 (0)	111 (0)

() は当日受付相談件数
※自死遺族個別相談 2 件含む

◆ 対面相談実施件数 年代別

年 代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
男	0	2	14	7	19	19	2	0
女	0	2	6	3	49	44	7	0
計	0	4	20	10	68	63	9	0

◆ 対面相談実施件数 相談回数別

1回： 28	2回： 14	3回以上： 132
--------	--------	-----------

◆ 対面相談実施件数 相談内容別

項目	人生	職業	経済	家族	対人	身体	精神	自死遺族	自死遺族
件数	61	2	0	69	36	0	2	4	21

◆ 対面相談実施件数 情報源別

情報源	地域新聞	HP	広報誌	3事業	公開講座	ポスター	その他
件数	28	61	23	25	0	0	37

◆ 自殺傾向

傾向	なし	念慮	危険	予告	自傷等
件数	162	11	1	0	0

◆ 自死遺族個別相談（於：印旛合同庁舎）

相談件数： 2 件	来談者数： 2 名
-----------	-----------

(4) 自死遺族支援事業 わかちあいの会「ひだまり」

◆ わかちあいの会「ひだまり」の活動報告

今年は千葉会場が千葉市生涯学習センターとCIDビル3階（千葉いのちの電話）になり、柏アミュゼ、印旛健康福祉センターの4ヶ所で行いました。

千葉市生涯学習センターに移動してからも参加者が戸惑わないよう、5月迄は以前のきぼーと学習センターの両方でスタッフが立ち対応しました。

初めての参加者も後を絶たず、参加者の気持ちに出来るだけ寄り添うように努力しています。

開始時は検温、手指の消毒、換気、パーテーションの設置を行い対応しております。

マスク、パーテーション等設置の為、会話が聞きづらい事もありますがそれでも参加者の顔の表情をとらえ対応しております。他では話せることの出来ない悲しみや自責の念、怒りなどの感情を本音で自由に話す事ができ共感したり、支え合いわかちあえる場所としての「ひだまり」の大切さを実感しています。

◆ 自死遺族支援事業部研修・スタッフ会議・個人SV

- 4/18 相談援助の倫理（グループ研修）
- 5/16 わかちあいの原点（藤井先生）
- 6/20 ロスラン（森 美加先生）
- 8/29 分かちあいの会での事例検討（末松先生）
- 9/ 5 コラージュ（森 美加先生）
- 11/21 ミニ講演会などの話し合い（自主研修）
- 1/23 わかちあいの会で気をつけること、大切にしたいこと（吉久先生）
- 2/ 6 KJ法（森 美加先生）
- 3/ 6 わかちあいの会の再発見（藤井先生）

◆ 2022年度 いのちの電話自死遺族支援合同研修（スタッフ4名参加）

- 10/29 自死遺族の喪失 小田島佳子氏
- 10/30 支援のケア 斉藤 真氏
- 1/29 自死遺族支援合同研修（仙台いのちの電話担当）
CIDビル ーzoomーにて

◆ ミニ講演会・交流会

「喪失の悲しみの果てに」自死遺族になった私の物語

講 師 森 美加氏

日 時 2022年11月25日

会 場 印旛合同庁舎 会議室

参 加 者 9名

◆ 自死遺族支援講演会を開催

日 時 2023年3月11日(日) 13:30~15:30

講 師 柳川 眞諦氏

いのちみつめて ~自死遺族支援にむきあって

主 催 柏市・社会福祉法人いのちの電話

参加人数 46名

◆ ひだまり開催と参加者数

年 度	開催回数	会場別参加数(人)						累計	参加内訳(人)	
		千葉	習志野	柏	君津	印旛	浦安		男	女
~2021	391	561	6	685	11	136	2	1,401	484	917
2022	24	112	—	32	—	15	—	159	65	94
計	415	673	6	717	11	151	2	1,560	549	1,011

◆ 茶話会開催と参加者数

年 度	茶話会回数	参加者	参加内訳	
			男	女
~2021	35	185	37	148
2022	4	8	3	5
計	39	193	40	153

◆ 合計

会 場	開催数	参加者	死別対象					
			子ども	配偶者	親	兄弟	恋人	その他
千葉	12	112	51	40	9	9	0	3
柏	6	32	24	2	6	0	0	0
印旛	6	15	6	3	1	5	0	0
計	24	159	81	45	16	14	0	3
茶話会柏	2	7	7	0	0	0	0	0
千葉	2	1	0	0	1	0	0	0
計	4	8	7	0	1	0	0	0
合計	28	167	88	45	17	14	0	3

◆ 参加者の声

- ・ 何年たっても哀しみは消えないが話せることがうれしい
- ・ ここに来てやっと本当の自分に戻れる
- ・ ほっとする場がほしい、以前の自分に戻りたい
- ・ 周りのすべてが悪いと思う自分が嫌いだ、ここにきて気持ちがわかってもらえる
- ・ 色の無い生活、いつかきれいな日々になるだろうか

Ⅱ 養成と研修

(1) 研修委員会

5月23日、10月24日

- ・34期養成講座の募集と応募への対応について

3月14日

- ・33期、3事業養成認定の件

(2) 研修専門家部会

4月24日、8月4日、11月7日、3月9日開催

- ・33期養成講座の進め方、判定、出欠の取り扱い、34期の面接、講座開始、35期のカリキュラムについて

(3) 研修ボランティア部会

1回目 4月23日

- ・33期養成への研担の態勢について

2回目 5月28日

- ・33期養成個別の対応について
- ・34期の応募人数について

3回目 6月18日

- ・33期養成研修Ⅳ課程へ向けて
- ・34期チーム結成に向けて
- ・4プロジェクトについて

4回目 7月23日

- ・33期養成 電話実習について
- ・34期チーム結成について

5回目 8月20日

- ・34期養成講座の流れについて

6回目 9月24日

- ・34期の具体的な対応について

7回目 10月22日

- ・35期養成研修の期間の決定

8回目 11月26日

- ・34期研修のコロナ等の理由による補講について
- ・34期宿泊研修の準備について

9回目 12月24日

- ・養成生のコロナによる公欠扱いについて
- ・次年度予算策定について

10回目 1月21日

- ・次年度予算案の決定

11回目 2月25日

- ・1年目研修の欠席規定

12回目 3月11日

- ・34期第2課程判定

Ⅲ 公開講演会・公開講座

厚生労働省補助事業公開講演会「答えを出さない生き方」

講 師：石井綾華氏

日 時：2022年10月8日（会場参加および録画のオンデマンド配信）

場 所：千葉市生涯学習センター

Ⅳ 活動報告

(1) 理事会・評議員会の開催

理 事 会 5月25日、10月28日、3月16日

評議員会 6月22日、11月17日、3月24日

(2) 運営協議会

1. 毎月開催
2. 各活動報告・見通しの共有と提議事項を協議する。主な検討テーマは次。
 - ①作業分担の見直し
 - ②コロナ感染防止対応の実施策、
 - ③リスクマネジメントについて
 - ④継続事項として災害等緊急時による公開講演会中止の基準について、総務財務委員会各部会の維持継続方法について

(3) 総務財務委員会

1. 定期的開催
2. 主な活動
 - ①ホウレンソウに関するアンケートの実施と改善
 - ②相談員の永年表彰と認定式の企画、実施。
 - ③創立記念日事業（展示）の企画と実施。
 - ④次年度事業計画と予算案の策定

(4) ボランティア増強部会

1. 定期的開催
2. 主な活動
 - ①第34期ボランティア相談員募集のチラシと募集案内の配布（4月～6月）
 - ②第34期ボランティア相談員募集事前説明会の開催
◎応募者 60名
 - ③第35期の準備は研修期間が1年半から1年に短縮されたため、募集開始が半年繰り延べられ、結果2023年度下半期開始となる。

(5) 広報啓発イベント部会

1. 広報プロジェクト

- ・ 広報誌「いのちの電話・ちば」第75号（7月）、第76号発行（11月）
千葉県内各市役所・保健センター・福祉協議会などに郵送

2. イベント部会コンサートプロジェクト

- ☆2022年6月コンサート（外山喜雄とデキシージェイツ）
- ☆2022年11月コンサート（東儀秀樹）

3. 講演会プロジェクト

2022. 10. 8 フリーダイヤル公開講演会開催

講師：石井綾華

演題：「答えをささない生き方」千葉県生涯学習センター（コロナ禍のため講師はオンライン参加、録画のうえオンデマンド配信）

(6) 事務局

事業活動の円滑な推進に協力。千葉市・関係機関との連携・会議等に出席

日本いのちの電話連盟会議に出席

相談員機関紙（ハウレンソウ）編集・作成

V 他機関との連携

(1) 千葉県いのちの電話協会事業後援

- ①チャリティーコンサート企画・開催の応援
- ②バザー等の応援

(2) 日本いのちの電話連盟

- ①第50回総会へ参加
- ②統計システム事業委員会へ参加
- ③インターネット相談実施センター会議に参加
- ④フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」及び「毎日フリーダイヤル」に参加
- ⑤いのちの電話ナビダイヤルに参加

(3) 千葉県諸機関との連携

- ①自殺対策支援連絡協議会のメンバーとして会議に出席（千葉県、千葉市、浦安市、柏市、市川市、船橋市、松戸市、八千代市、白井市、横芝光町 他）
- ②千葉県精神保健福祉協議会にメンバーとして参加（心のふれあいフェスティバル、心の健康フェア、退院促進セミナー）
- ③千葉市ボランティア連絡協議会の関連行事に参加

2022（令和4）年度 決算報告

■貸借対照表（2023（令和5）年3月31日現在）

（単位：円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	33,491,705	流動負債	62,295
現金	8,608	預り金	45,942
普通預金	29,846,447	職員預り金	16,353
事業未収金	3,628,940		
立替金	7,710		
固定資産	174,772,840	負債の部合計	62,295
基本財産	105,479,812	純 資 産 の 部	
土地	59,500,000	基本金	145,812,651
建物	45,979,812	その他の積立金	60,932,722
その他の固定資産	69,293,028	修繕積立金	2,600,000
建物	5,228,446	備品等購入積立金	9,000,000
構築物	1	ボランティア養成積立預金	5,932,722
器具及び備品	2,436,757	掌風会養成積立金	20,000,000
電話加入権	536,372	次期繰越活動増減差額	1,456,877
ソフトウェア	158,730	（うち当期活動収支差額）	25,431,256
修繕積立資産	26,000,000		
備品等購入積立資産	9,000,000		
ボランティア養成積立資産	5,932,722		
掌風会養成積立資産	20,000,000	純資産の部合計	208,202,250
資産の部合計	208,264,545	負債及び純資産の部合計	208,264,545

■資金収支決算書（2022（令和4）年4月1日～2023（令和5）年3月31日）

（単位：円）

	科 目	予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A)－(B)
事業活動による収支	相談事業収入	13,398,000	13,122,106	275,894
	経常経費寄附金収入	31,730,000	32,574,911	△ 844,911
	受取利息配当金収入	300	739	△ 439
	その他の収入	1,795,000	1,674,000	121,000
	収 入 計	46,923,300	47,371,756	△ 448,456
	人件費支出	7,264,000	7,230,087	33,913
	事務費支出	10,337,120	10,655,134	△ 318,014
	その他の支出	0	0	0
支 出 計	17,601,120	17,885,221	△ 284,101	
	事業活動資金収支差額	29,322,180	29,486,535	△ 164,355
施設整備等による収支	施設整備等収入	0	0	0
	施設整備等支出	313,500	313,500	0
	施設整備等資金収支差額	△ 313,500	△ 313,500	0
その他の活動による収支	その他の活動収入	655,000	645,000	10,000
	修繕積立預金・他支出	0	26,000,000	△ 26,000,000
	その他の活動資金収支差額	655,000	△ 25,355,000	26,010,000
	予 備 費	961,052	0	961,052
	当期資金収支差額合計	28,702,628	3,818,035	24,884,593
	前期末支払資金残高	29,611,375	29,611,375	0
	当期末支払資金残高	58,314,003	33,429,410	24,884,593

監査報告書

令和5年5月12日

社会福祉法人千葉いのちの電話

理事長 友田直人 様

監事 大森 葉 

監事 稲本 守次 

私たち監事は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度（2022年度）理事の職務執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各幹事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等（事業報告及びその付属明細書）について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。

理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純財産の増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

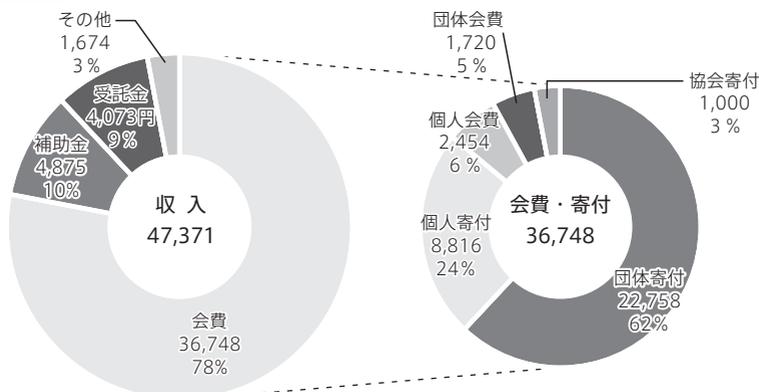
■2022（令和4）年度補助金等内訳

（単位：円）

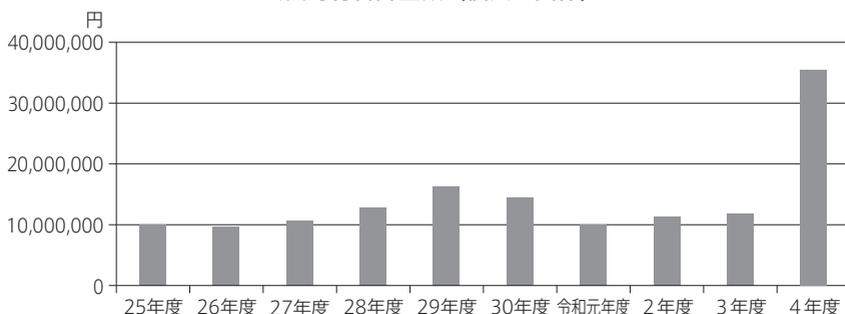
千葉県（電話相談員研修費）	1,023,940	自死遺族支援事業	
千葉県（地域自殺対策強化事業費）	197,000	千葉県受託事業	1,748,000
千葉県（セーフティネット強化基金）	375,000	柏市受託事業	285,000
千葉市（電話相談員研修費）	500,000	計	2,033,000
千葉県社会福祉協議会	70,000		
千葉市（自死遺族支援）	138,768		
千葉県共同募金会	595,000		
丸紅基金	1,200,000		
日本いのちの電話連盟	775,398		
計	4,875,106		

財務報告

2022年度収入の内訳 (単位：千円)



会費寄付合計金額 (個人と団体)



令和4年度の収入は47,371,756円。このうち、会費が金額で昨年より2%減少。安定財源である会費の減少傾向は続き、目下の課題である。一方寄付金は遺贈等大口のお申し出を頂き金額で昨年比プラス25,418千円と大きく増収に貢献した。補助金は新規の調査研究を対象にした案件などあり昨年比86%増となった。その他収入は養成研修生が34期で減少したため40%減となった。

■大口団体寄付(5万円以上)ありがとうございました。

敬称略(アイウエオ順)

アローズエンジニアリング株式会社、上野社会保険労務士事務所、MDRTソニー会、カトリック西千葉教会、金坂医院、京葉銀行社会活動推進室、京葉銀行小さな親切運動推進本部、掌風会、(一社)生命保険協会千葉県協会、千蔵院、千葉県流通商防犯協力会、千葉興業銀行ともしびの会、千葉信用金庫、千葉大学医学部付属病院看護部、千葉西ロータリークラブ、千葉ゆうきのライオンズクラブ、千葉ロータリークラブ、中村古峽記念病院、長谷川化学工業、(有)やまあき、連合千葉、八千代東ライオンズクラブ

2023（令和5）年度 事業計画基本方針

1. 基本理念の浸透

精神的危機に直面し苦悩している人に傾聴を基本姿勢として寄り添う相談活動を通して、裾野の広い自殺予防活動を行う。これらは、善良な市民の自らの意思による無償の行為である。いのちの電話関係者はこの基本理念を共有し、浸透させること。

2. 千葉いのちの電話の一般県民への広い周知とボランティア確保

自殺予防活動を目的とし活動するこの働きを、広く県民の一人一人に広報すると共にボランティアへの参加促進をアピールする。

3. 新組織の理解促進と定着

法・社会・利用者・相談員等の要請にこたえるため組織・各内規等の整備を進める。内部での理解・改善・見直しを、対話を基に進める。

4. 施設整備の実施

特に経年劣化に注意しながら、建物・設備の点検と整備の計画化。整備資金積立の実行。

5. 財政基盤の健全な強化

安定的な寄附金収入の確保と拡大のため、維持会員を更に獲得する方法の検討と実施。特に新型コロナウイルス感染症予防対策による影響を踏まえ、企業・団体・個人へ賛同を訴求する新たな手法を構築する。

6. リスクマネジメント活動の推進

様々な非常事態を想定し、相談員や設備、組織を保護することと相談活動の安定的継続を目的に、記録化と相談員への周知を目指す。

7. 将来像の検討

基本理念に基づき、社会の変化に対応した、将来の千葉いのちの電話のあり方を検討する。

2023（令和5）年度 事業目標

I 研修委員会

研修全般に関する方針策定、研修計画・予算案の承認
研修の課題への対応及び決定

(1) 研修専門家部会

研修に関する事項や課題について専門家の立場から協議・提言・提案を行う。相談員の判定・認定を行う。

(2) 研修ボランティア部会

研修専門家部会とともに、研修計画の策定、予算の作成、決定された研修の実施を行う。

II 事業委員会

適切な相談活動の維持・継続のための、直接的な施策の検討と実施。

すなわち円滑な相談活動のため、相談員への配慮をしつつ関係団体との調整を実施する。また、記録の整理・分析と保存、福利厚生、環境整備を実施する。各部会毎の活動内容は次の通り。

- ・ 電話相談事業部会：24時間体制確保と連盟連携の強化、電話相談担当の調整、相談環境の改善
- ・ インターネット相談事業部会：非会話の特性を生かした特に若年層利用の拡大
- ・ 対面相談事業部会：地域への開かれた相談の場所として利用者の拡大
- ・ 自死遺族支援事業部会：コロナ禍以降の利用者に対し、わかちあいの会ひたまりの役割の充実

III 総務財務委員会

適切な相談活動の維持・継続を側面より支える活動
自殺予防の啓発、相談員の拡大、財務支援の増強等のため、広く県民に千葉いのちの電話の存在を周知し、理解と協力を仰ぐ。各部会毎の活動内容は次の通り。

- ・ ボランティア増強部会：ボランティア募集と応募者の拡大
- ・ 広報啓発イベント部会：講演会の開催、協会のイベント支援による周知と財政支援、広報誌発行
- ・ 財務総務部会：事業計画・予算案作成を中心に、健全な事業の遂行と財務基盤の拡張

IV 事務局

事業計画・予算に則し各事業の円滑な推進を図る。

2023（令和5）年度 一般会計予算

2023年4月1日～2024年3月31日

科目	予算額
【収入の部】	(単位：円)
会費収入	4,200,000
補助金事業収入	3,300,000
受託金収入	4,065,000
寄付金収入	6,500,000
雑収入	803,000
ボランティア養成 積立金繰入収入	600,000
当期収入合計	19,468,000
【支出の部】	(単位：円)
人件費支出	6,659,216
事務費支出	11,827,878
設備取得支出	200,000
予備費	780,906
当期支出合計	19,468,000
当期収支差額	0
支出合計	19,468,000

千葉県いのちの電話協会

「千葉県いのちの電話協会」は社会福祉法人千葉県いのちの電話の後援会です。

千葉県いのちの電話の財政的支援を主として各種支援事業（活動ボランティアによる手づくり作品の販売・チャリティバザーなど）を行っており、年2回開催するコンサートは収益事業であると共に、幅広く地域の皆様に千葉県いのちの電話の活動にご理解とご支援をお願いする広報活動でもあります。1990年10月の結成から33年目を迎えることができ、これまでご支援を頂いた皆様には深く感謝申し上げます。

★昨年度はコロナ禍により開催も直前まで危ぶまれましたが第19回千葉県いのちの電話ふれあいチャリティーコンサート「いのちワンダフルワールド外山喜雄とデキシーセイnts」および第30回千葉県いのちの電話2022年チャリティーコンサート「千年の時空を行き交う東儀秀樹の音楽世界」を無事開催することができました。いのちの電話の活動に応援いただいた演者の方々のとても充実したステージに、来場者も満足してお帰りになりました。

また、各所で予定しておりましたバザーはほとんど中止となる中、コンサート会場での販売が大きく貢献しました。

★イオン社会貢献事業「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加

2009年3月より、イオンマリニピア店にて参加しております。これは、参加している活動団体の中から支持する団体に黄色いレシート（毎月11日発行）を提供、金額の1%がその団体に（株）イオン様よりイオンギフトカードとして贈呈される仕組みです。コロナ禍で休止の店頭でのPR活動も復活し、2022年度は29,500円（累計723,800円）のご支援を頂いております。ありがとうございました。

2023（令和5）年度 コンサートのご案内

- ◆ 第20回千葉県いのちの電話ふれあいチャリティーコンサート
6月3日（土）千葉県文化センター アートホール
細（尾形）晃子ソプラノトークコンサート「心に届く癒しの声」
- ◆ 第31回千葉県いのちの電話2023年チャリティーコンサート
11月4日（土）千葉市民会館
田中星児ほのぼのコンサート「みんなで歌おう」

■大口団体寄付（3万円以上）をありがとうございました。 敬称略
千葉銀行 千葉興業銀行 千葉信用金庫 小さな親切運動ちばぎん支部

社会福祉法人千葉いのちの電話 役員名簿 (敬称略) 2023 (令和5) 年7月1日

顧問

佐藤 甫 夫	元千葉大学医学部 教授	山口 光 治	淑徳大学 学長
長谷川 匡 俊	学校法人大乗淑徳学園 理事長		

理事長

友田 直 人	社会福祉法人千葉バタニヤホーム 前理事長
--------	----------------------

理事

佐藤 俊 一	NPO法人スピリチュアル ケア研究会ちば 理事長	松崎 泰 子	元淑徳大学 教授
斎藤 浩 一	千葉いのちの電話 事務局長	三橋 和 弘	社会福祉法人 一粒会 監事
清水 新 二	奈良女子大学名誉教授		一般社団法人 日本いのち の電話連盟 監事
林 偉 明	千葉県精神保健福祉センター センター長	水鳥川 洋 子	NPO法人子どもセンター 帆希 理事

監事

大森 薫	大森税理士事務所 所長	裕本 守 次	NPO法人キッズパレット昭 和小放課後児童クラブ館長
------	-------------	--------	-------------------------------

評議員

青木 一 芳	千葉YMCA 理事	永 富 博 之	日本労働組合総連合会 千葉県連合会 会長
因幡 和 久	医療法人グリーンエミネンス 中村古峽記念病院 看護師長	鳩川 進 一	公益社団法人千葉市保健医療 事業団 常務理事兼事務局長
今井 一 雄	今井法律事務所 弁護士	長谷川 昌 江	元千葉いのちの電話ボランティア
大賀 四 郎	NPO法人千葉県精神障害者・ 家族会連合会 理事長	長谷川 美 穂	公益社団法人 千葉県看 護協会 常任理事
岸 憲 秀	千葉YMCA 理事長	花崎 みさを	社会福祉法人一粒会 理事長
鈴木 和 成	鈴木測量株式会社 取締役社長	溝井 伸 二	一般社団法人 生命保険協会 千葉県協会 事務局長
鈴木 鉄 也	社会福祉法人千葉県社会福祉 協議会 事務局次長・総務部長	矢澤 正 浩	千葉市社会福祉協議会 常務理事
永 長 徹	社会福祉法人千葉県共同募金会 常務理事・事務局長	吉松 靖 子	元千葉いのちの電話ボランティア

尚、一般社団法人千葉県労働者福祉協議会は選任交替の手続きをさせていただいております。

研修専門家部会

上田 将 史	NPO法人 志木市精神保健 福祉をすすめる会 理事長	佐藤 俊 一	NPO法人スピリチュアル ケア研究会ちば 理事長
岸 良 範	茨城大学 名誉教授	末松 涉	東京いのちの電話 理事長
木村 登紀子	聖路加国際大学 名誉教授 桜クリニック 臨床心理士	西浦 加代子	元ルーテル学院大学付属 PCGカウンセラー

千葉県いのちの電話協会(後援会) 役員名簿(敬称略) 2023(令和5)年7月1日

顧問

白井 日出男	元衆議院議員	青柳 俊一	千葉興業銀行 取締役会長
淡路 睦	千葉銀行 取締役専務執行役員	宮澤 英男	千葉信用金庫 理事長
綿貫 弘一	京葉銀行 相談役	大澤 克之助	千葉日报社 代表取締役社長

相談役

阿部 紘一	千葉県議会議員	堀江 はつ	元千葉県議会議員
小川 善之	元千葉市議会議員	米持 克彦	千葉市議会議員
佐久間 隆義	元市原市 市長		

名誉会長

安田 敬一	公益財団法人安田教育振興会 理事長
-------	----------------------

歴代会長

川島 教昭	株式会社稲毛自動車教習所 代表取締役会長
-------	-------------------------

会長

橋本 妊壽奈	成田ユネスコ協会婦人部長
--------	--------------

副会長

鈴木 和成	鈴木測量株式会社 取締役社長	吉成 庸子	作家・エッセイスト
島田 行信	学校法人市川学園 理事		

理事

天野 和子	千葉いのちの電話活動ボランティア	齊藤 朝江子	有限会社エダブン 代表取締役
新井 隆太	アラックス株式会社 代表取締役社長	重宗 光子	千葉いのちの電話相談ボランティア
遠藤 宏之	株式会社シティハウス 代表取締役	友田 直人	社会福祉法人千葉いのちの電話 理事長 千葉ベタニヤホーム 前理事長
日下 忠文	日下医院 院長 元千葉いのちの電話 理事	豊田 重俊	有限会社豊工業 取締役
栗栖 美千夫	東日本旅客鉄道株式会社 千葉支社 鉄道事業部 指令・サービス品質改革ユニット リーダー	山口 悦子	千葉いのちの電話活動ボランティア

監事

大森 薫	大森税理士事務所 所長
------	-------------

ご支援のお願い

●あなたのご支援を必要としています

千葉ののちの電話の活動は、多くの善意あるボランティアの無償の奉仕によって支えられています。24時間365日眠らぬダイヤルの維持や建物管理、研修生の訓練や相談員の継続研修、広報活動などのために、年間約2,000万円の経費が必要となっております。

現在、全国の自殺者は警察庁の発表によると令和4年は21,881人、千葉県内では994人になっています。「死にたい!」と訴える相談者のこころは、「生きたい! 助けて!」です。その声に寄り添うために、一人でも多くの方に資金ボランティアとして千葉ののちの電話を支えてくださいますようお願い申し上げます。

●ご寄付の税額控除について

千葉ののちの電話では、平成24年10月11日から税額控除が受けられるようになりました。税額控除証明書を領収書と一緒に印刷しておりますので、確定申告の際にはどうぞご活用下さい。詳細は事務局までおたずねください。

●維持会員、寄付者会員になってください

- ◆個人会員 年額1口 2千円 (何口でも)
- ◆団体会員 年額1口 1万円 (何口でも)
上記の額を毎年継続して納入して頂ける個人や団体
- ◆寄付者会員 この社会福祉法人の主旨に賛同して頂き、寄付金を納入していただける方、金額は問いません。

《お振込は下記のいずれかをご利用ください》

- ・郵便振替 / 00110-0-366563
<加入者名>「社会福祉法人 千葉いのちの電話」
- ・銀行振込 / 千葉銀行県庁支店 004 (普) 2115973
京葉銀行本店 080 (普) 8897411
千葉興業銀行千葉支店 111 (普) 6182171
千葉信用金庫本店 001 (普) 0580786
<口座名>「社会福祉法人 千葉いのちの電話 理事長 友田直人」

社会福祉法人 千葉いのちの電話 事業案内

発行日 2023年7月1日
発行者 理事長 友田直人
事務局 〒260-0012
千葉市中央区本町3-1-16 CIDビル
TEL 043-222-4416
FAX 043-227-6911
<https://www.chiba-inochi.jp>
E-mail ll-chiba@chiba-inochi.jp
エルエル

